

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	<p>今後も勉強会、意見交換会を目的とした家族会の開催、また地域の集まり(自治会、民生委員、老人会、地域イベント)等に参加する機会を強化し、事業所の理念、役割について理解してもらえるよう取り組んでいく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>今後も地域の行事に参加したり、事業所での行事に地域の方々を案内し親睦を図りながら気軽に行き来できる関係作りを継続したい。いずれは「ゆいまーる」的な関係作りが出来ればと思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月2回、自治会の介護予防事業への健康チェック派遣、ホームや公民館等で認知症の勉強会を実施している。地域自治会に介護相談や施設見学の受け入れ案内ポスターを配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての自己評価、外部評価のため具体的には取り組みしていないが理念の実施に向け日々工夫している。	○	今回の自己評価、外部評価で見えてきた課題をスタッフ全員で改善出来るよう取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の地域運営推進委員会の実施で運営活動の報告と意見交換、改善への取り組みを行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に行き来する機会が少ないのでホームでの行事等に案内して入居者、家族、職員との意見交換を図りたい。	○	市町村主催の研修があれば参加し、サービスの質向上に努めたい。今後ホーム側からも積極的に市町村との関わりが出来るようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、職員は外部や法人内の研修、勉強会に参加して地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について学べるよう努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会に参加、高齢者虐待防止関連法についての理解を深め、日頃から虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に本人やご家族へホームの運営や契約内容を説明、不安や疑問点も確認しながら理解・納得を図っている。利用前には必ず見学を促している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現時点で苦情はないが、入居者や家族からの意見、不満等には運営者、職員間で話し合い改善に努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会、家族面会時、毎月のおたより、電話連絡等で報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回の家族会の実施、意見箱の設置、面会時など日頃から気軽に話し合える馴染みの関係作りに努めている。	○	家族会の充実を図り、さらに入居者、家族へのアンケート調査を行い意見を把握したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を毎月行っている。又、日頃より運営上の課題を職員、運営者と話し合い改善に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態変化に合わせ、又スタッフの都合や体調を把握しながら柔軟に勤務調整出来る様努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引き継ぎは十分な説明と理解を求めて行う。	○	異動や離職後も気軽に立ち寄れるホーム作りをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内での勉強会の開催や法人内外の勉強会、研修会へ参加できる体制にある。</p>	○	<p>勉強会への積極的な参加を促し、年間の計画的な教育や研修を行なっていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>沖縄県グループホーム連絡会に加盟、情報交換を行っている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃から職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。又職員のストレスや疲労を確認しながら休息出来るよう勤務調整に努めている。</p>	○	<p>入居者も職員も楽しく生活できる環境、ホーム作りをしたい。同じ法人の地域密着型事業所との交流会や県内の同業者との研修、交流会に参加意見交換を図る。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>地域密着型グループホームへの理解を持って向上心を図る。又職員個々の状況を確認しながら勤務調整を行う。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には本人とのコミュニケーション作りに充分注意して臨んでいる。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や要望には努めて傾聴体制で臨んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援に努めて状態、状況把握している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心、納得して利用できる様、家族、本人をよく知る関係者、職員間で相談、雰囲気作りをしている。利用前には本人、家族へホームの見学をしてもらい、他の入居者や職員とのコミュニケーションを図りながら利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	沖縄の行事、郷土料理の作り方や農作物の作り方等利用者から学んだり、趣味や特技の面でも本人の出来ること、出来ないことを確認し日々の生活の中で役割を持って支え合う関係作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の宿泊や面会はいつでも出来る体制にある。本人の心配事や訴えがあれば家族の都合を確認しながら電話連絡、外出、外泊又は自宅訪問などを行っている。面会時や電話連絡で本人の様子や思い、家族の想いを話し合いながら、一緒に本人を支えていく関係作りをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を確認しながら面会、外出、行事参加等を促し、また、ホームでの行事(外食会、誕生会、その他季節の行事)に家族を案内して一緒に過ごすことで、お互いの良い関係の維持に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人、場所の確認を家族、知人、本人より行っている。親しい知人と過ごすことや馴染みの場所に行くことで日常の楽しみを見つける。	○	家族、知人の理解と協力を得ながらさらに地域生活での楽しみを見つける工夫を図りたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人一人の個性や日常の状況を把握し、お互いが良い関係で暮らせるよう、環境作り、活動、コミュニケーションに努めている。	○	すべての入居者に対して、さらに利用者同士の関係作りや孤立させない雰囲気作り、楽しい生活が出来るように工夫したい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在契約終了者はいないが、利用者やその家族が気軽に立ち寄り、相談、交流出来る雰囲気作りに努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの訴えや思いに耳を傾けながら把握に努めている。困難な場合は本人の表情、行動観察、又家族や職員の意見も聴きながら把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話に触れ、どんな生活をしてきたのかその中で聴いたり、家族や知人の面会時に生活状況を伺っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の心身の状態把握、一日の過ごし方、出来ること、出来ないことの情報交換を本人、家族、職員間で行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞き取り要望に添ったケアが展開できるよう職員間又関係者で話し合い、ケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の心身の変化、又本人や、家族の要望があれば関係者で検討し現状に添ったケアプラン作成を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個別に記録し職員間での情報共有や介護計画の見直しに生かしている。	○	ケアプランが個別の記録へ反映できるようさらに記録の工夫を行ないたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在通所介護、ショートステイは実施していない。本人の要望で、馴染みの方と面会のためデイサービスに出向いたり、自宅訪問や買い物等に出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	所轄の警察、消防、自治会区長、ボランティア、地域民生委員、給油所、理髪店等に協力体制依頼をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の通所サービスでの慰問公演やイベントへの参加、小規模多機能居宅介護との昼食交流会を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより運営推進委員メンバーとして関わりはあるが、積極的な協働はまだない。	○	今後利用者個々の権利擁護や総合的、長期的なケアマネジメントなど、事業所のみでは解決困難な状況等があれば地域包括支援センターとの連携を図っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望により、それぞれのかかりつけ医に定期受診している。状態変化や家族対応困難時には職員付き添い対応している。		

沖縄県(グループホーム さわふじ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	出来るだけ指針早期に作成しながら重度化や終末期に向けた方針の共有を図りたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	ホームでの重度化や終末期について今後の方針や対応を検討していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーや誇りを損ねないように気をつけながら、その人にあつた言葉かけや対応を心がけている。記録等、個人情報の取り扱いにも十分注意をしている。	○	時々言葉使いが気になる場合があるので、プライバシーに十分配慮した言葉かけに気をつけたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の自己決定を重視したケアを心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の個人の体調や気分を確認しながら本人の希望に添った過ごし方を尊重している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服は本人に選んでもらい、身だしなみやおしゃれも基本的に見守りで行い、できないところを支援する。理容・美容は本人、家族に確認、希望のお店で行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のできる能力を確認しながら、買い物、調理、味付け、盛りつけ、配膳、下膳を一緒に楽しみながら行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎月の外食会は本人の好きなものを選んで食べてもらっている。また、時々数人で出かけ個人的な買い物や外食を楽しんでいる。喫煙者、飲酒希望者は現在いないが、要望があれば健康状態を確認しながら対応していく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄動作や排泄パターンを把握し、できるだけオムツを使わず、トイレで排泄できる様取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在入浴は一日おきに入っているが、希望があればいつでも入れるようにしている。入浴時間も個人に確認しながら好きな時間に入れるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調を確認しながら安眠や休息支援を行っている。必要時専門医と連携して眠剤、安定剤調整を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯物たたみ、掃除散水、裁縫などできる方には手伝ってもらっている。又、本人の習慣や要望を確認しながら散歩、ドライブ、買い物等を行っている。又、行事等では郷土料理など教わりながら一緒に作って楽しんでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を所持したい方には管理してもらい、出来ない方は家族と相談し本人のお小遣いとしてホームで管理している。可能な方は一緒に買い物に出かけ支払いも行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の要望があれば、職員間で連携をとり、自由に外出、ドライブ、買い物、自宅訪問等を叶える様にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力も得ながら、花見、初詣、浜下り、祭り見学等に出かけている。地域の祭りにも積極的に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば家族や知人に確認にて可能な限り連絡が取れるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があればお茶を準備し、ゆっくり話ができる様にしたり、又、職員も一緒になって雑談する仲で馴染みの関係作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はなく、自由に生活していただいている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由に入出入りしてもらっています。玄関に鈴を付け出入りの際、音で確認できるようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員間で声掛けしながら一人一人の所在確認や行動、状態を見守り事故、入居者間のトラブル防止に努める。夜間は安眠、プライバシーに配慮しながら1時間毎に巡視する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な刃物、洗剤等は、棚や収納庫などに置いています。転倒、異食、誤飲リスクの高い方の行動は特に注意しながら環境を整えています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットを作成し、再発防止について申し送りやミーティングで話し合っている。日頃から入居者の日常生活行動を観察、予測される事故、トラブル防止について環境整備、スタッフ対応について話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人主催の救急救命の勉強会参加や事業所での勉強会を行っている。	○	今後はすべての職員が緊急時速やかな対応、行動できる様定期的に勉強会、実戦訓練を計画したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人主催の避難訓練に職員が参加している。	○	ホーム内での定期的な避難訓練を計画実施していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に家族に説明しています。面会時等に入居後の状態説明、リスク、対応について話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、食事、排泄、心身の状態観察を行い、異常があれば、速やかに家族、かかりつけ医に連絡し対応を行っている。又、緊急を要する際は管轄の消防、協力病院との連携を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服説明書は入居者カルテにファイルしいつでもみれるようにしている。又、服薬の変更時は送りノート、記録に記載し、職員で周知する様にしている。入居者の内服薬についての作用、副作用について勉強会を行なった。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、食事の工夫や水分補給、運動、緩下剤調整にて排便コントロールを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア、うがいの声掛けを行い、一人ひとり出来る所はしてもらい、出来ないところを援助している。口腔内トラブルがあれば家族に連絡、歯科受診してます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分摂取状況を確認し、排泄状態や毎月の体重測定、かかりつけ医への定期受診で栄養状態を確認している。又、栄養バランス、水分摂取量には個別に応じて注意している。	○	排泄の不安から水分の自主制限する利用者への水分の促し方を検討していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザはご家族の同意を得て予防接種、職員も全員義務つけている。食前後、就寝前、排泄後などは手洗い、うがいの声掛け、実施を促しています。感染症対策への勉強会へ職員参加。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は洗剤で十分洗浄、乾燥し清潔を心がけている。毎日食材在庫の確認をし、食材は賞味期限内に使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や玄関先には花木を植え、玄関先には椅子を設置、入居者が 外気浴、地域交流しやすい雰囲気作りに努めている。玄関の段差はほとんどないが、入居者の出入時は職員が付き添うようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、音、照明灯は入居者にあわせて調整している。入居者と一緒に家庭的な雰囲気でも落ち着ける空間作りに取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	応接間には大きなソファがあり気の合う方が雑談したり、テレビ視聴、お昼寝などしている。又、廊下、玄関、和室にもソファや椅子を設置、それぞれが自由に落ち着ける居場所作りを行なっている。		

沖縄県(グループホーム さわふじ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品を持ち込んでもらっている。家具の配置等は本人、家族と相談しながら模様替えしている。	○	使い慣れたものや馴染みの物品の持込がまだ十分とはいえないので、家族とさらに検討していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロア、居室の換気はこまめに行っています。室温調整は入居者にあわせ調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の設計段階より入居者の自立した生活を考え取り組んでいる。利用者の入居後も生活状況を観ながら自立支援に向けた工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはすだれ、トイレの表示をし確認出来る様にしてあります。居室ドアには本人の選んだ花の絵を貼り認識できる工夫をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は縁側で茶話会を行なっている。又、周辺の散歩や草取り、日光浴などを行っている。	○	庭を使った園芸、家庭菜園、レクリエーションの充実を図りたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム さわふじ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)